

第60回全日本総合ハンドボール選手権大会  
 <戦評記録用紙>

\*会場 いしかわ総合スポーツセンター **Aコート**・Bコート

\*スコアー

大同特殊鋼	<b>38</b>	20	_____	12	<b>26</b>	大崎電気
		18	_____	14		

\*見出し **好守に圧倒した大同が3連覇を達成!**

前日の準決勝では接戦を制し、決勝の舞台へと勝ち上がった両チーム。双方とも中央を厚く守る5-1ディフェンスを採用したため、攻撃では2枚目のディフェンス、下のポストプレーとサイドシュートの出来が勝敗の鍵を握ると予想された。

先手を取ったのは左腕山城がサイドシュートを決めた大同特殊鋼。その後も武田、山城の速攻を繰り出した大同が3-0と好スタートを切った。対する大崎電気は永島の速攻で返すが、その後も多彩な攻撃を繰り出す大同が富田のポストや山城のサイドで得点を重ね、14分6点差をつけたところで、大崎がタイムアウトを請求した。攻撃の手をゆるめない大同は白の個人技も絡めて差を広げ、内田のサイドシュートなどが散発的に決まる大崎に8点差をつけて前半終了。

後半が始まると、大崎は前日のラッキーボーイ岩永を投入しペースを変えようとするが、その岩永が期待に応えミドルやカットインで差を詰めようとする。しかしここで大同GK高木が前日に続き好セーブを連発する。大崎は頼みの宮崎を完全に押さえられてペースが上がらない。逆に大同は堅い守りからの速攻が飛び出し、18分、この日最大の10点差がついた。大同はシステムチェンジやポジションジを繰り返し、余裕の攻撃。その後は宮崎が驚異の滞空時間のサイドシュートでこの日最初の得点をあげるが差は縮まらず、大同が悲願の3連覇を達成した。